(本號十面)　(逓信省認可)　明治二十四年十一月十九日　(定價金二錢)

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報

第三千百九十號
明治廿四年十一月十九日木曜日
(西暦一千八百九十一年)
暦辛卯十月十八日(己酉)

日出入　午前六時二十分　午後四時三十一分
月出入　午後七時十六分　午前九時三十九分
満潮　午前七時二十八分　午後七時五十分

義捐金募集の日延べ

大地震に付義捐金募集の期限は十一月十五日までの定ありしも處遠隔地方の慈善家より送金し來る分は昨今に至りて最も多く續々延期の申込あるに付更らに其期を延ばして來る一二十五日迄と定む

明治二十四年十一月十五日　東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地　時事新報社

時事新報

聯立内閣組織の機運切迫したるが如し

大隈伯辭職の一事は政府の覺悟を示したると同時に民間政黨の決心を促したるものゝ如し今後の政治社會に一層の奇觀を呈するは疑ひもなき所なれども扨その實際の成行如何を想像するは都見を以てすれば此一事は我輩の屢ば論述したる朝野聯立の内閣を組織するの機運を早めたるものと云はざるを得ず聞く所に據れば至高顧問の職に在るの身を以て政黨の運動に關係し剰へ政黨首領の資格を以て他黨の首領と會見するが如きは其職に對して不都合なり云々とは伯が辭職の重なる原因を爲したるものなりと云ふ其運動の果して不都合なりしや否やは姑く擱き兎に角伯は公然政黨の首領と認められたるものにして若しも現政府の一體を在朝黨として民間黨に相對するときは恰も反對黨より名指されて事を挑まれたるの姿なきに非ざれば伯たる者も亦自から決心なきを得ず其事情は明治十四年に伯が時の内閣より追ひ拂はれて民間に政黨を組織したると同樣なるみとならん而して一方の在朝黨に於ても斯る斷然の處置に出でたるは自から覺悟の在るみとおらんなれば今後政府と政黨との關係は更に觀を改めざるを得ず從來民間政黨は自由と云ひ改進と云ひ其主義目的には大差なくして面も現政府に對する感情に於ては殆んど同一樣のものなるに兎角合一の運動を見る能はざりし所以のものは畢竟その黨中に公然たる首領なく恰も共和政治の有樣なりしが故に運動も自から區々にして其間に動もすれば衝突の患を免れざりし次第なれども今や自由黨は板垣伯を戴て其指揮の下に運動する事となり又大隈伯も板垣伯と會合したるが爲めに公然政黨の首領と認められて恰も他より決心を促されたるの姿なれば其決心は自から事實の上に現はれて此兩黨の間に合一の運動を見るや疑ふべからず即ち今日の有樣は政府は既に斷然たる覺悟を示し民間の政黨も亦自から決心する所ありて恰も政府と民間黨と隱然對立の勢を現出したるものにして今回の國會護壕を開戰の手始めとして今後雙方の間に花々しき戰爭を見るみとおらん事の行掛にして數の最も睹易き所なれども扨その最後の成行を豫想するに元來政治上の爭は政府の地位を目的とするものにて一方は之を守らんとし一方は之を取らんとするに外ならず即ち政府の力大なれば民間黨は容易に志を得る能はず之に反して政黨の勢盛なれば内閣に更迭を見るか一つ二つの塲合なれども我輩の所見を以てすれば目下の事情に於て雙方共に全く其目的を達するみとは難しと云はざるを得ず國會開設の今日に於て政府が永く藩閥の情實を維持して其地位を久ふするみと能はざるは勿論なれども左りとて又今の政黨が一躍して全く政府を一新し政黨内閣を實にするが如きも當分の間先づ以て覺束なかる可し左れば政府政黨對立して互に相爭ふ其結末は如何ある可きやと云ふに雙方共に一歩も退かずして爭ひ益々甚しきを加ふるに至れば種々の現象を生じて事の結果憂ふ可きが如しと雖も凡そ紛雜極りて更に生面を開くは政治社會の常態にして今回の始末の如きも世人の想像に違はず一時は雙方の感情衝突して或は不睦の成行を見るとある可しと雖も久しからずして頓に局面の變化を致し案外の好相を呈するは之を從來の經驗に徴して明白ある所なれば我輩は目前の嚴寒氷雪を意とせず遠からずして一番驚を啓き春風春水一時に來るの機會あるを疑はざるものあり其時節到來とは即ち時を經るに隨ひ雙方の感情も次第に薄らぎ且は徒らに爭ふの事に益なきを悟りて遂に事を共にするの必要を感ずるみとにして先年大隈伯が隱然たる改進黨の首領より外務大臣の地位に就き又後藤伯が大同團結の政派より内閣に入りたるが如き何れも此道行に外あらず今後の成行も亦必ず此邊に外あらざるみとおらん然り而して從前の例に於ては其人々は何れも一個人の資格を以て政府に出でたるみとなれども今後の事情に於ては決して然るを得ず大隈伯なり板垣伯なり今日は既に公然たる政黨の首領たるのみならず一般の形勢も自から從前と異にして政治上に一個の進退を許さゞるが故に若しも其人々にして今後内閣に入るときは即ち政黨の首領たる資格を以て入るものにて其曉みそ即ち朝野聯立内閣の組織を見ざるを得ざる故に我輩は今回の事實を以て取も直さず聯立内閣組織の機運を早めたるものと斷言せんとするものなり

雜報

○歐洲新聞の奇相

九月二十日土京君士但丁堡に於て　時事新報特派員　野田正太郎

土耳其内閣變動の次第は先便取敢へず報道したる筈なれば讀者は大體の樣子を了解せられしならんと思へ共今頃は右の變動に付狂人の如く叫び考婆の如く口説きたる歐洲諸新聞の報日本の新聞紙に上りて或は事の實想を誤るみとは無きやと心配に堪へず常々日本の諸新聞を見ても分るが如く政海風急にして波瀾高からんとするの時に至れば記者眼前の風光轉變絢りあきに眩して判斷の明を失ひ易く一二者擁持重のものを除くの外は我感情の命ずるがまに〳〵百千の想像談を記し去り記し來りて空しく世上を騷がすに止まる者あきに非ず記者彼自身さへ已に政海の颶風中に捲き込まれたるものと云ふ可し偖も歐洲の政局は日本よりも廣く且其面目にして新宮座の演說、壯士の亂暴位にては治まり附かず一度び列國平均の棹を誤る時に於ては地中海、歐亞の野幾萬人の鮮血を注ぎたる其上に老猾魔王の如き政治家の腦漿を絞り合しても尚は治り附かぬみとある可し容易ならざる次第にして政海の波瀾萬丈とは正に此邊の形容なる可く其風雨雷電瞬刻も止まざる列國の風色を傍より眺むれば壯快と云ふよりも寧ろ物凄まじき心地がする之に比べて小兒の戲の如き日本の政局に在る新聞すら折〳〵目を瞋はすとありと云ふ斯くも嶮はしき政海に浮沈する歐洲の新聞に身心の健康を望むは無理ある注文にみとあれ彼等は間斷なき刺衝に堪え得ずして激烈なる神經病者とおれりソト指の先を其肌に觸れても彼等は火の附きたるが如く飛び上るなり呼び出すなり、一國輸物の輸出を取ゞめたりと開けば戰爭且夕に迫るが如く驚くなり甲國乙國の軍艦を優遇したりと聞けば連衝樽俎の間に成れるが如く吹聽するなり大統領の席上演說を文法上より解剖し生徒が譯讀の下讀する如く無理の意味を附會して自ら喜ぶあり宰相が閣室の密話を針の如き戶の透より覗聞きてエーヘエル大の棒とおし千里歐亞の廣原に振廻すなり歐洲の政治新聞其數多しと雖其發兌する日々の紙面に「戰爭」の文字を見ざるはなかる可く夏日試に之を驅に代へば腥風鼻を衝いて到るみとある可し誠に不思議の事相にして例令百千のコッホを集むるも斯る新聞紙の奇病を癒やすみと叶ふ可くもあらざるなり）

此程土耳其の政變に付ても歐洲新聞は確報の至るを待たずして種々の想像を逞ふしたり彼のタイムスすら警鐘を打ち掛けたるものゝ如し其一に曰く機敏なる土耳其帝は先頃露國がクロンスタットに於て佛國艦隊を厚遇したるを見中立の地位を轉じて露佛へ同盟の國利なるを認め即ち前宰相の政策を一變して其所思を實行せんが爲め内閣を交迭せしめたるなり、近頃露艦をしてダルダネール峽を通過せしめたるも此下拵なり、露國の助を得て埃及より英兵を引上げしめんが爲めなり其二に曰く前宰相數大臣と謀りて廢立の事を行はんとす陰謀露顯、前宰相幽囚せらる其三に曰く一夜宮中の瓦斯燈一度に消えて土耳其帝が心安らずオスマンパシヤに命じて其原因を取調べしめたれども要を得ず内閣交迭の事亟に起ると以上諸報の中には近頃尤もらしき廉もあり偖は燈臺元暗くして瓦斯燈の消えたるさへ氣付かざりしかと雖も時は驚きたれども歐洲新聞は聞もおく「土耳其帝は土京駐在英公使に向ひ内閣交迭に依て外交の方針は一も動搖せざる旨懇諭したる由」の一報を掲げて大に安心の色を現はし無言の間に前報を取消したると同時に内閣交迭の眞原因も亦何れへか影を隱したるものゝ如し元來土耳其の政治を歐洲流に勘定しては間違の起る筈なり土耳其の君主政體に於ては何程内閣の交迭ある共土耳其の意志堅固なる以上は其外交政略に異動ある可くもあらず而して過る十二年間に異動を見さりし皇帝の外交政略が最近の十二時間に變ずべしと思はれず露佛土同盟の想像は第一數理に合はざるものと云ふ可し畢竟土耳其政變の眞原因は是等の外に在る可く土耳其帝の外能く之を知る者ある可からず余が先報「土耳皇帝の出來心」に決著して多を云はざりしは之が爲めなり歐洲新聞の喧囂は余の與みせざる所なり

兎にも角にも歐洲の境上に國する程うるさき事はあるまじ日として兵備、戰爭、合縱連衡、壯士の亂暴位にては治まかざるはなきのみか帝王の旅行宰相の出來心位して山秀で水清く歐洲の殺氣も直あき小事に至る迄悉く干戈の音を反響して好夢を結ぶみと叶ふ可からず殊に其上に老猾魔王も五官を具へ良心を備ふる者は一夜の間に其面目を變ずるの事あり其上に開國以來の進歩は正に全く第二流の國拠として外國の交渉相亞ぎ傍より見て悲慘の情に堪へざるまで近きスマタラ嶋邊に移住せられよ共に吸ふて浩然の氣を養ふ可し」と感れなり願みれて我日本は極東の別天地の英國とは我も云ひ人も許す所なれかな外の憂少なければ内の閑着に餘れ、此頃の某英字新聞に「日本が東洋るは左まて不相應にあらねど政海の暗殺要撃などあるは不似合なる事あり冷汗の背を濕はすを知らざりき天運あり今日の英國永く今日の英國たらず今日の日本たらず斯る天與の好地位移住等の富强策を講じ内の偏僻を去り易場に馳驅するに於ては東洋の英國に止まらざるべしと云ふ是れ決して夢想の言に非ざるなり束あきは今の有樣、附け込まれぬ用心らんと是れ也

○支那人送還の手續に就て　過日の電報如く北米合衆國にては支那人移住禁止の新に渡來する者を捕へんとして支那人の桑港の如きは其取締嚴密なれば渡り夫より徐々に米國へ入る者あり之を呼べる支那人は移住禁止令を犯して米國に入りミシガンのポート フーロンに上り米國政府は直に之を同人の本國あんとせしかば米國駐在の英國公使ポは大統領ハリソン將軍に照會して同人相違あきも其住所は加奈陀あれば之を加奈陀へ送すべしと請求したれども諸せず國務卿ブレーン氏に書面を送り事件は他に關係さへ無くんば英國公使に加奈陀へ送致すべけれども差し此事令の實行上に大關係を有するものなれ本國に送還すべしと云へり是に於て米國政府へ照會中右支那人はミシガンへしに同所の判事は同人を本國に送還し加奈陀に還らしめたりと云ふ

○鹿兒嶋の政況　鹿兒嶋には同志會派との二派相拮抗するありて同志會派は關とし獨立倶樂部派にては今回鹿兒嶋して互に相排擊する由なるが今其二派りと云ふを聞くに獨立倶樂部派の厚柳書記官朋派の山本染川氏等と折合宜しかりたれど目下は互に連合して柏田氏等に盛力するよし又同志會派にては鹿と計畫し居る由にて同新聞の株主たる同志會派を分離したるより幾分の勢力くあれども三州社の一涙が同會の勢力るあらんとの說あり左れど河嶋醇氏の歸朝の際は名望高かりしも近來は却て川氏等が稍や名望を博するに至りたり